



いじめについて考える日

生徒10カ条その③



今日の全校集会でみんなに「いじめについて考える日」についてお話をしました。以下、内容を簡単に書きますのでもう一度読んでみてください。

2016年に開催された「おおさか 子ども市会」において、子ども議員から「いじめについて考える日」の制定が提案されました。これを受けて、5月の連休明けの月曜日を、「いじめについて考える日」に設定することになりました。また、2019年には「大阪市いじめを考える中学生フォーラム」が行われ、各ブロックでの生徒会交流会での取り組みや、代表校のいじめ防止の取り組みが発表されました。そしてその時にスローガンを決めることになり、「いじめSTOP、見逃し0(ゼロ)」が決議され、今もそのスローガンが続いています。

では改めていじめについて話したいと思います。今日はみんなに「今までにいじめをしたことがある人？」と聞きましたが、誰一人手を挙げる人はいませんでした。本当になればすばらしいことですが、大なり小なり経験のある人もいます。でも横堤中学校生徒10カ条の3番目に「いじめを許さない」とあるように、いじめは絶対にダメ。いじめる側が100%間違っているんだということをみんなも十分にわかっていると思うので胸を張って手を挙げられる人はいなかったと思います。だから今日は校長先生の自分の話、本当は隠しておきたい恥ずかしい話、知られたくない話をあえてしたいと思います。今こそこうしてみんなにいじめは絶対にダメだと偉そうに話していますが、実は校長先生は小学校5年生の時にいじめをしていました。同じ学年の女の子です。自分に対して何か嫌なことをしたり、言ったわけではなく、ただ何となくみんなが嫌がっているからという理由で近づいてきたら逃げたり、体に触れるとそれを汚いもののように人につけたりしていました。さらにひどいときには下校中に前を歩いているとランドセルを蹴ったり、ランドセルを引っ張ってこかせたり、泣いているのを見て笑ったりと本当にひどいことをたくさんしていました。そんな時に「いじめ」のことがテレビなどで話題になり、死にたいと思うくらいつらい思いをしている人がたくさんいることを知りました。もし自分のしたことその女の子が死を選ぶことになったらと思うと怖くなり、もう絶対にいじめはやめようと決意しました。それからはケンカをすることはあっても一方的に一人の人をいじめる行為は一切していません。それは自信をもって言い切れます。でも、学校内外で「いじめ」というフレーズを聞くたびに40数年前の自分が女の子をいじめていたシーンが鮮明によみがえるのです。さらにその時は見えるはずがなかったいじめをしているときの自分の醜い顔が見えるのです。そんな風に今も苦しんでいるのが現実です。もちろんいじめられていた人が一番苦しんでいたのは間違いありません。みんなにはそんなどちらの思いもしてほしくありません。いじめる側が100%悪い。それは絶対に変わりません。そしていじめている人も苦しみを一生背負うことになることを忘れないでほしいと思います。気の合う人、合わない人、これからいろんな人達と出会うことだと思います。だからこそ、相手のことを知り、相手のことを認めていけるひとにみんなにはなってほしいと願っています。本当なら知られたくない恥ずかしい話をしました。中にはいじめている側が優位な立場にいるように勘違いをしている人もいるかもしれません。でもどうか忘れないでください。

『人の不幸の上に立って得られる幸せはない』ことを。